

研究課題名	南西太平洋におけるマラリア撲滅及び開発の加速：地域特性に応じた多角的戦略構築に関わる研究		貢献する 主な SDGs	3 すべての人に 健康と福祉を  1 貧困をなくそう 
研究代表者 (所属機関・役職)	金子 明 (大阪公立大学 大阪国際感染症研究センター/大学院医学研究科 特任教授)		研究期間	5 年間
相手国	パプアニューギニア独立 国	主要相手国 研究機関	パプアニューギニア医学研 究所	
研究課題の概要				
パプアニューギニアでは、アジア太平洋地域で最も深刻なマラリア流行が続き、人々の健康と生活が脅かされています。本研究開発では、パプアニューギニアと日本の研究者が協力し、高度流行の背景にある多様な社会・文化、生物・遺伝、気候・生態的因子を探るとともに、革新的な AI 駆動の予測技術や媒介蚊対策、治療法、ワクチンを統合した科学的エビデンスに基づく戦略を作ります。さらに、現地の住民参加、保健人材育成やデータ活用を強化し、パプアニューギニアが自律的、持続的にマラリアを制圧する道筋を見出します。得られた成果はインドネシア・パプア、ソロモン諸島、ヴァヌアツなど周辺国にも広げ、地域全体の健康と安全に貢献することを目指します。				